

第2節

子育て支援活動の実態

園は、在園児の保護者に対し、子育て相談や子育て情報の提供、講座・講演会などを通して子育ての悩みに対応したり、知識を得る機会を提供している。地域の保護者には園庭や保育室などを開放し、子ども同士、保護者同士が交流する機会を作っている。全般的に園は子育て支援を肯定的にとらえており、経年比較でもその傾向は強くなっている。

第2節では、園による子育て支援活動が、どのような内容で、どれくらい実施されているのかをみていきたい。図3-2-1は子育て支援活動の園全体の実施状況を対象者別（在園児の保護者と地域の保護者など）に示したものである。

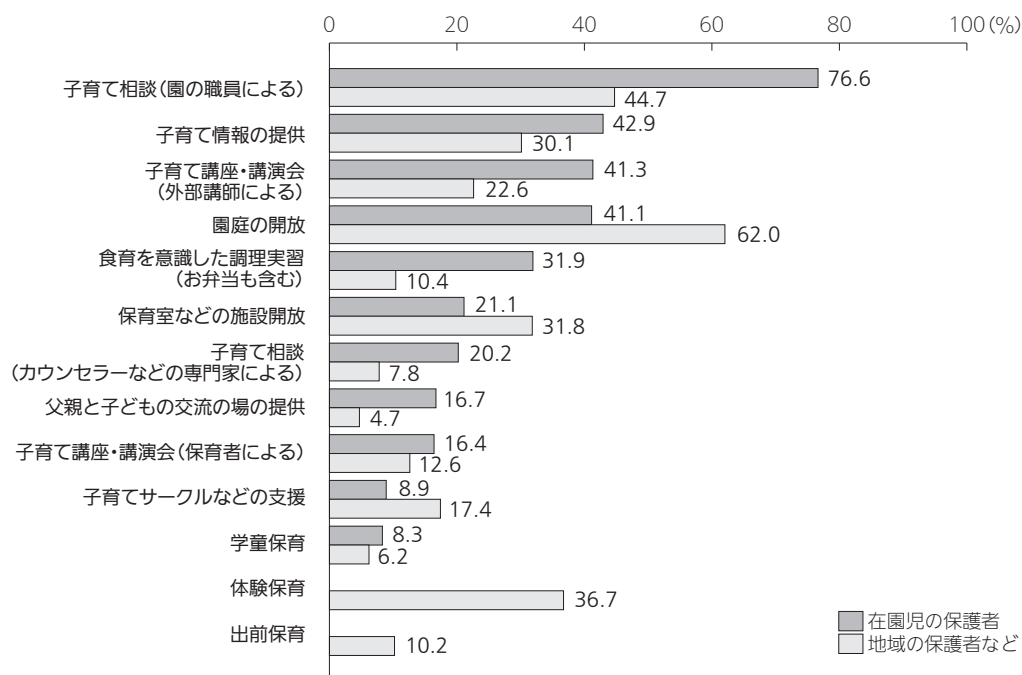
在園児の保護者を対象とした子育て支援の上位5位を見ていくと、「子育て相談（園の職員による）」76.6%、「子育て情報の提供」42.9%、「子育て講座・講演会（外部講師による）」41.3%、「園庭の開放」41.1%、「食育を意識した調理実習（お弁当も含む）」31.9%

31.9%となっている。

幼稚園、保育所、認定こども園の区分別にみると（図3-2-2）、国公立幼稚園での実施率は「園庭の開放」72.4%、「子育て講座・講演会（外部講師による）」63.6%が高くなっている。なお、「子育て相談（園の職員による）」は認定こども園82.7%、私営保育所78.8%も高い実施率となっている。

地域の保護者などを対象とした子育て支援の上位5位は（図3-2-1）、「園庭の開放」62.0%、「子育て相談（園の職員による）」44.7%、「体験保育」36.7%、「保育室など

図3-2-1 園が実施している子育て支援（全体値）



注1) 複数回答。

注2) 「体験保育」と「出前保育」は在園児の保護者に対してたずねていないため、データはない。

図3-2-2 在園児の保護者に対する
子育て支援（園の区別別）

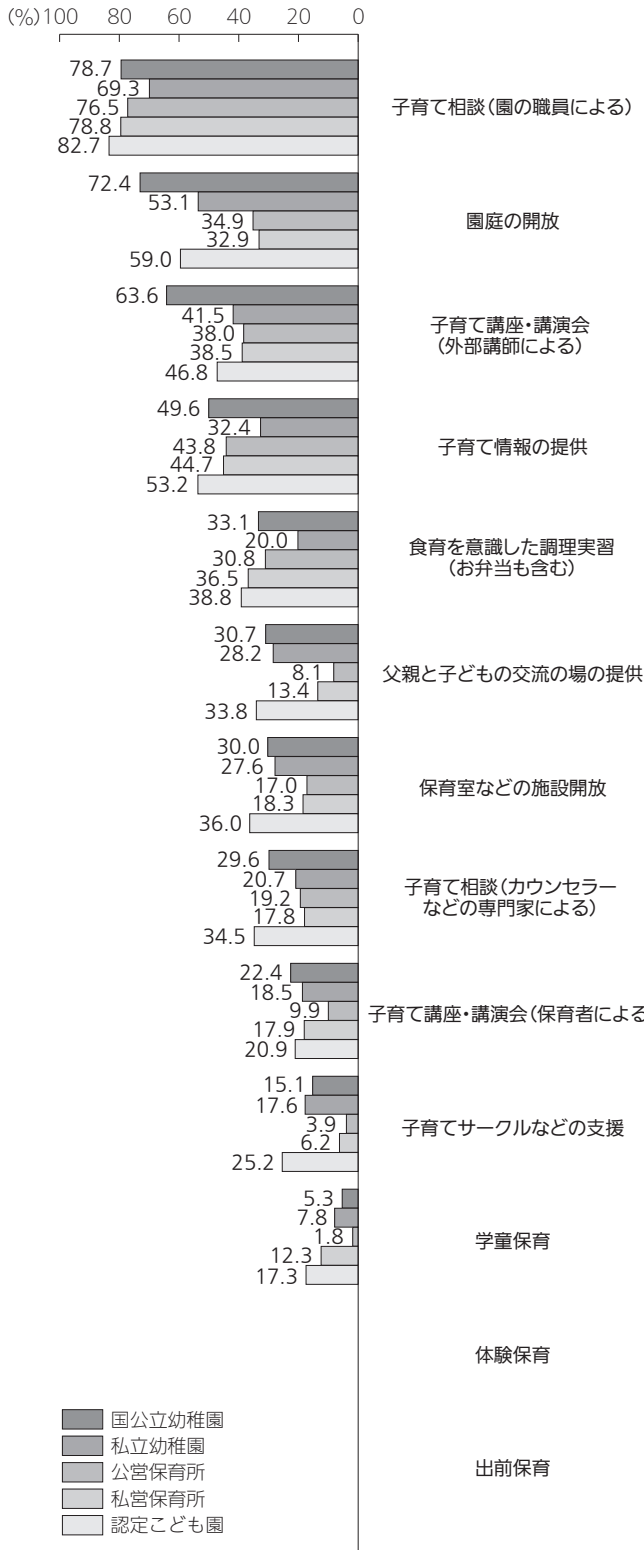
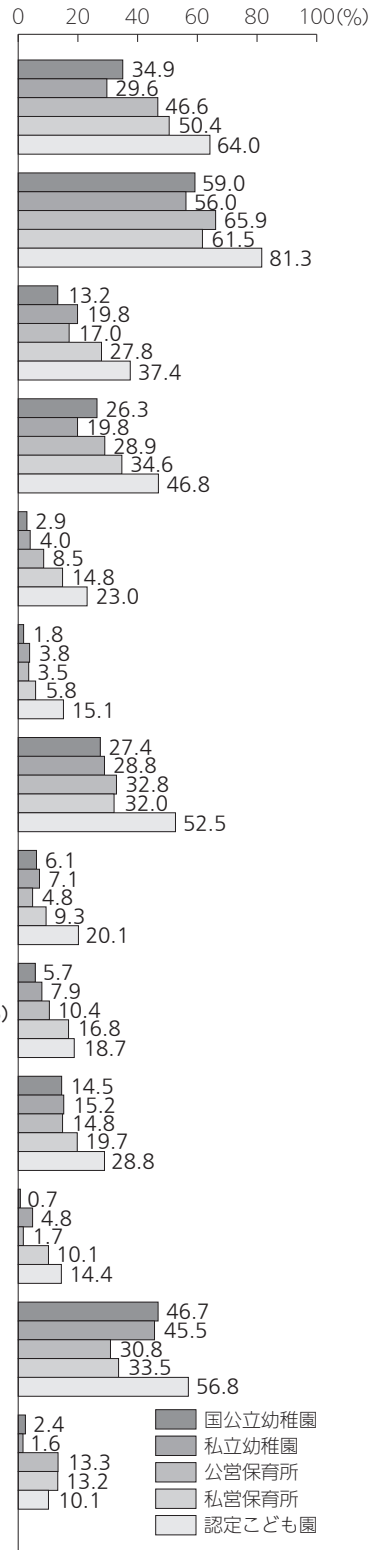


図3-2-3 地域の保護者などに対する
子育て支援（園の区別別）



注1) 複数回答。

注2) 「体験保育」と「出前保育」は在園児の保護者に対してたずねていないため、データはない。

第3章 保護者との関わり・子育て支援

の施設開放」31.8%、「子育て情報の提供」30.1%であった。

幼稚園、保育所、認定こども園の区分別に見ると、全体的に認定こども園での実施率が高くなっている（図3-2-3）。認定こども園はサンプル数が139園と少ないので、参考値として見たほうがよいが、「園庭の開放」81.3%、「子育て相談（園の職員による）」64.0%、「体験保育」56.8%、「保育室などの施設開放」52.5%と、「出前保育」を除くすべての項目で、他の区分の園よりも高い。もともと認定こども園の設立の理念に「地域の子育て支援を担う」ということがあるため、地域の保護者などへの子育て支援に熱心に取り組む、このような結果になったと思われる。

全体的にみると、在園児の保護者には子育て相談や子育て情報の提供など、子育てに関する支援が多く、地域の保護者などを対象としたものは、園庭や保育室などの施設開放や体験保育などが多いことがわかる。

ここまで、園の子育て支援の現状をみてきたが、ここで主な子育て支援5項目について、園の区分別に実施率の経年変化をみてみよう（図3-2-4）。全体的に減少幅が大きいのは、「子育て情報の提供」である（国公立幼稚園12.3ポイント、私立幼稚園14.4ポイント、公営保育所27.4ポイント、私営保育所23.1ポイント）。

幼稚園では「子育て相談（園の職員による）」が増加し（国公立7.5ポイント、私立5.1ポイント）、「園庭の開放」もやや増加している。保育所の実施率はすべての項目で低下した。そのため、結果的に幼保の間の実施率の差が縮まっている。

園の子育て支援は年を追うごとに盛んになっているように見えるが、保護者のニーズを受け、実施内容の絞り込みが行われているのかもしれない。また、保育所は待機児童解消のため、定員以上に子どもを受け入れている園もあり、子育て支援の優先順位が低下し

てきていることも考えられる。

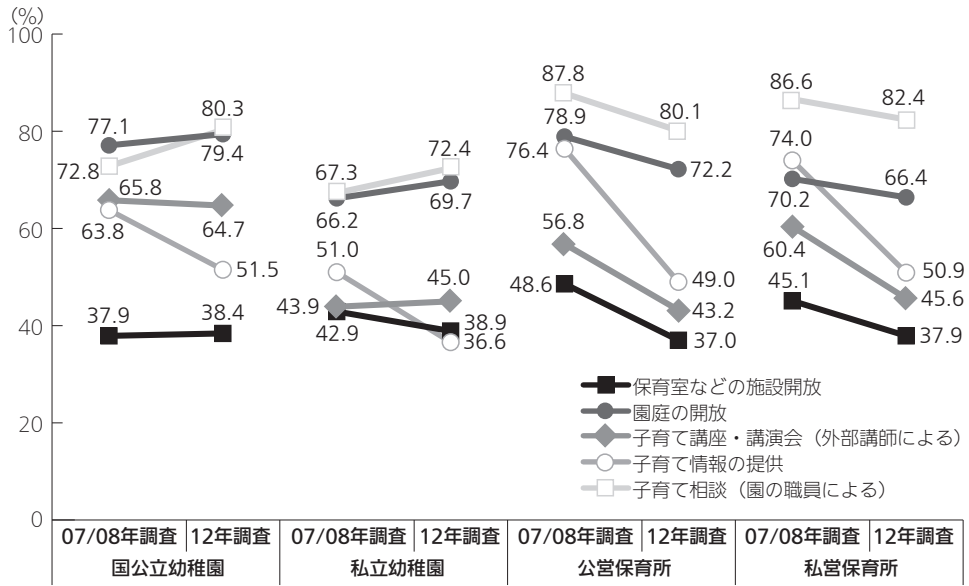
こうした変化の背景には園の考え方も影響していると思われる。園は実際にどのような支援の必要性を感じているのだろうか。図3-2-5は、2012年調査の際に乳幼児のいる家庭全体に対して充実させる必要があると思われる支援を7項目あげ、たずねたものである。充実させる必要性を「とても感じる」ものとして、「子育てについて気軽に相談できる場や機会の提供」51.1%、「保護者が乳幼児の発達やかかわり方について理解を深めるための情報提供」50.9%が上位にあげられていた。

では、園としては、子育て支援を行うことをどのように考えているのだろうか。図3-2-6は、子育て支援活動を行うことについて、それぞれの項目について回答してもらったものである。「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合計した数値をみると、「子育て支援のあり方を考えるきっかけになる」87.8%、「園運営上、プラスになる」82.0%、「保護者の成長が期待できる」82.1%、「乳幼児の教育・保育環境がよくなる」71.7%と、いずれも70%を超え、肯定的な回答傾向となっている。

残り3つのややネガティブな質問をみてみよう。「保育者の負担が大きい」については、「とてもそう思う」13.2%、「まあそう思う」38.2%で、子育て支援を肯定的に考えながらも約半数の園は負担を感じている。「保護者の依存を招く」「園の本来の保育活動にマイナスの影響がある」は、「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせてもそれぞれ22.0%、11.2%と、子育て支援に対する否定的な見方はかなり少ない。

さらに「園の運営上、プラスになる」「保育者の負担が大きい」の2項目に注目し、園区分別に経年比較をした結果をみてみよう。「園の運営上、プラスになる」について、12年の数値の「とてもそう思う」「まあそう思う」

図3-2-4 主な子育て支援の実施率（園の区別別・経年比較）



注1) 13項目のうち、主な子育て支援に関する5項目を図示。
 注2) 複数回答。

図3-2-5 乳幼児がいる家庭全体に対して、充実させる必要性のある支援（全体値）

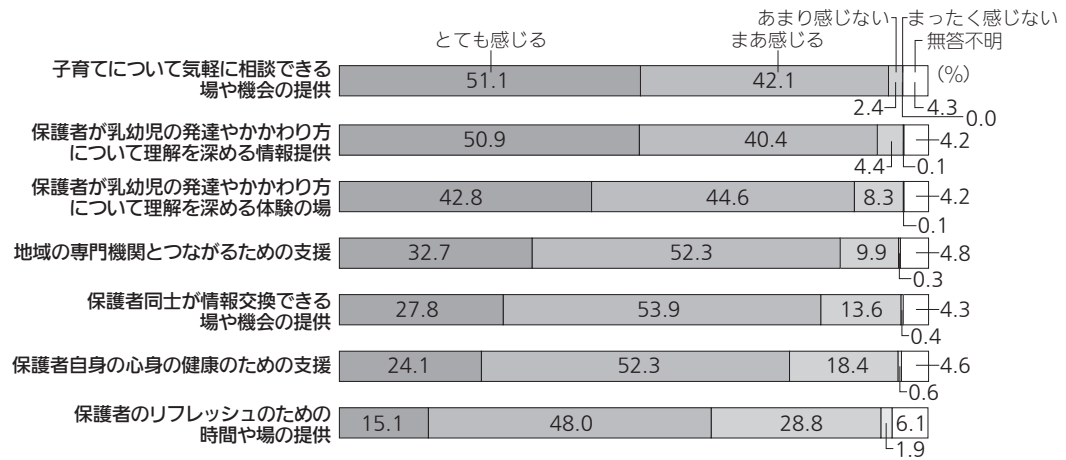
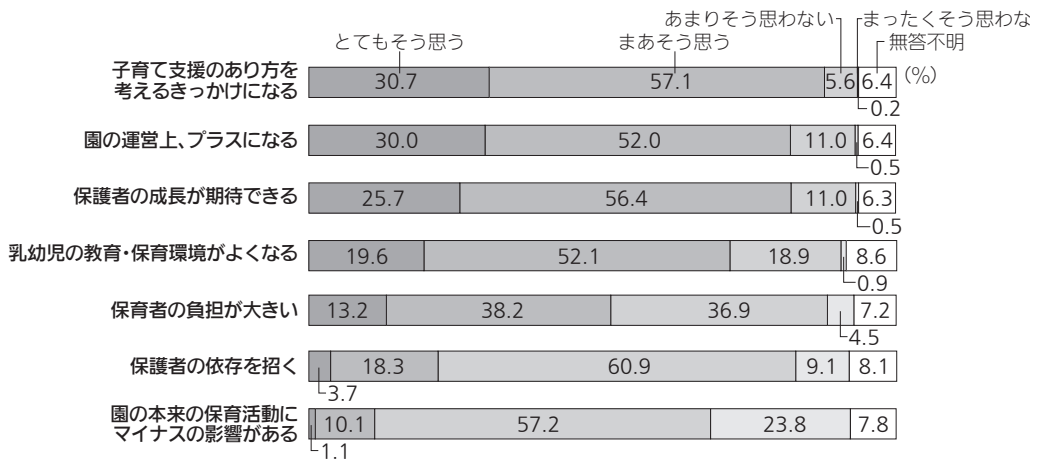


図3-2-6 園で子育て支援活動を行うことに関する意識（全体値）



第3章 保護者との関わり・子育て支援

をみると、保育所よりも幼稚園、認定子ども園の肯定的な回答が多いことがわかる（図3-2-7）。07/08年調査との比較をみると、「とてもそう思う」は、国公立幼稚園が7.5ポイント、私立幼稚園が10.3ポイント増加している。幼稚園の場合、定員割れを起こし、新たな園児を獲得する必要性に迫られている園が増えている。園児獲得が課題となっている園とそうでない園を2つの群に分けて比較してみると、国公立幼稚園の場合、「園の運営上、プラスになる」がやや高かったが、他の区分の園はそれほど差がなかった（図表省略）。子育て支援に取り組むことがそのまま園児獲得につながるというよりも、在園児の

保護者や地域の保護者などとの関係性を強化し、地域の中での評価を高めることが全体的に園の運営を良くするということなのだろう。

「保育者の負担が大きい」については経年比較すると全体的に「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答する割合が減少している（図3-2-8）。行政からの予算がつくようになり、非常勤スタッフを確保して子育て支援などに充てることができるようになったことも背景にあるのかもしれない。また、子育て支援に取り組むことが園の役割として定着してきて、保育者の意識が変化し、負担感が薄れてきていることも考えられる。

図3-2-7 「園の運営上、プラスになる」（園の区分別・経年比較）

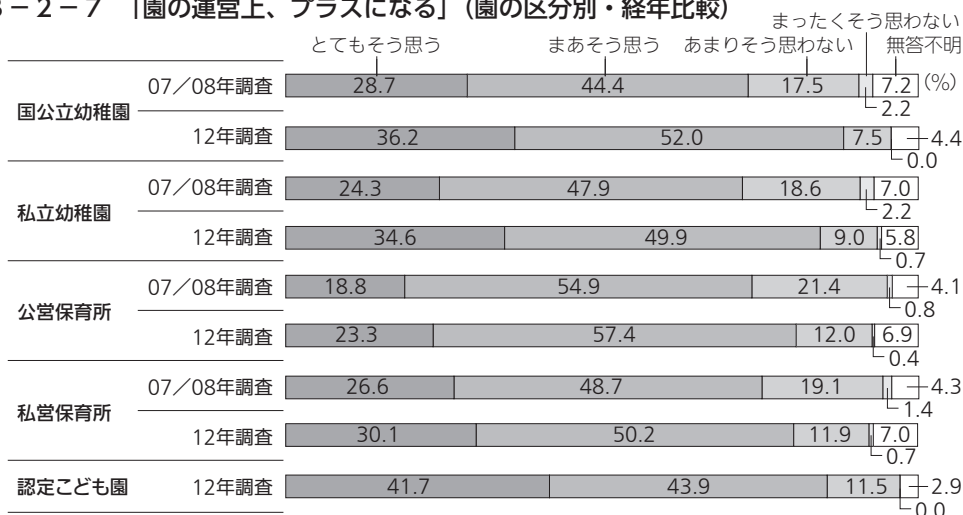
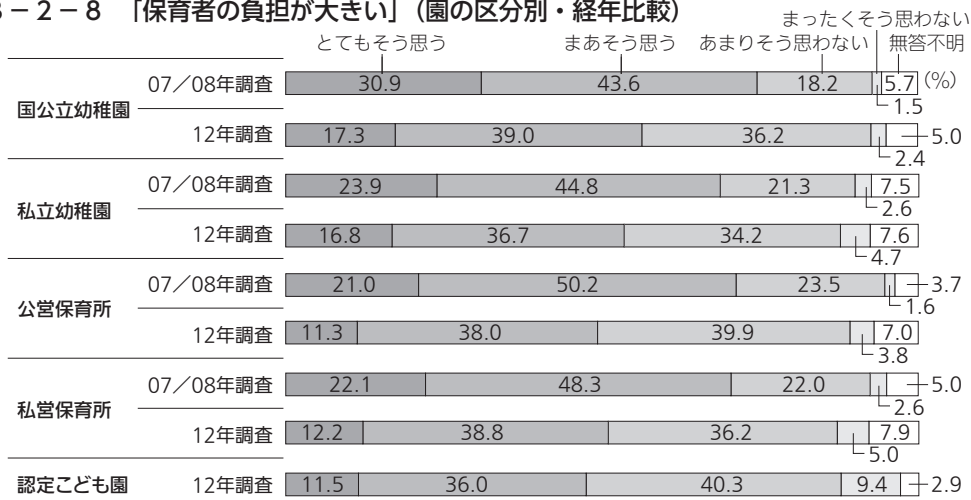


図3-2-8 「保育者の負担が大きい」（園の区分別・経年比較）



注) 図3-2-7、8の認定こども園については、12年調査が初めての調査となるため、経年データなし。